

IFALPA AGE Committee in Puerto Vallarta, MEXICO

はじめに

2022年3月、IFALPA AGE Committee がメキシコのプエルト・バヤルタという太平洋に面する小さな町で開催されました。コロナ禍の第6波が収束に向かう兆しが見えたものの、依然として日本政府が厳しい検疫体制をしいており、ALPA Japan からの委員派遣は見送りました。久しぶりに対面形式で開催されたこともあり、会議では活発な議論と意見交換がなされたとの報告がありました。

主な議題

<ICAO Aerodrome Operation Working Group>

- ・ UAS (Unmanned Aerial System) が世界的に増加しており、国際 FIR をまたぐフライトが増えていくと予想される。現時点では何も決まったものはないが、UAS の国際的な動きを注視していかなければいけない。
- ・ 2つの新しい無障害物表面 (OLS : Obstacle Limitation Surface) に関して、フランスの航空当局とアメリカ FAA が中心となって議論が行われている。

① New Obstacle Free Surface : OFS

② New Obstacle Evaluation Surface : OES



<ICAO Visual Aid Working Group>

- ・ EMAS が設置されている空港における、EMAS に関する看板についての議論が継続されている。FAA などから看板のデザインや設置場所の提案がされた。最終的には Annex 14 の改訂を目指している。
- ・ 数年前に IFALPA より提案されている「Departure / Approach Hold」に関する議論。ICAO Annex14 への挿入を目指し議論を続けている。
- ・ ILS の G/S と PAPI の整合性に関して。PAPI の開発者である Anthony Smith 氏が登壇した。
- ・ ICAO Annex14 に記載されている Obstacle Limitation Surface は 1970 年代の概念と大変古く、現状に沿った概念に改訂されなければならない。2022 年末までに新しい概念を共有し、2026 年にはそれを有効とするタイムスケジュール感で進めていく。
- ・ 既存の灯火に関して、LED 化の議論が広く展開されている。しかしながら、非常に広範な分野での議論となり、また多くの利害関係者が関わることから、現状は收拾がつかない状態となっている。

<Regional Working Group on Aerodrome Operations>

- ・ 新しく立ち上げられた Working Group であり、2022 年 1 月に第 1 回が開催された。今回取り上げられたテーマは、5G に関する事や GNSS の Interference、UAS/Drone に関する事、などであった。

最後に

IFALPA AGE Committee における現在の Hot Topics は、「Remote and Diversion Airport の具備すべき条件」と「EMAS に関する内容、看板や乗員のチャート類上での表記など」の 2 つがあげられます。また、Local Runway Safety Team に関する取り組みの中では、タイのプーケット空港への取り組みが注目されています。プーケット空港では誘導路と滑走路の中心線距離が不十分であるなど、早急な対応が求められています。ALPA Japan AGE 委員会は、引き続き IFALPA と情報共有をしながら、取り組んでいきます。

以上